

# 令和5年度伊達市事務事業評価シート

## 1 事務事業について

事務事業名 (予算書上事業名)	04	施設整備事業 (大滝区) (施設の整備に要する費用)	作成日	令和5年8月2日
基本目標	04	安心・安全で住み良いまちづくり	建設部	
分野別施策	02	居住環境の整備と地域環境の保全	上下水道課	
必要な取組	01	安全でおいしい水の提供	総務係	
補助/単独	単独	経費区分	投資	新規/継続
会計区分	43	簡易水道事業会計【資本】	継続	重点施策
予算科目	目	01	資本的支出	① 06
	項	01	建設改良費	② 11
事業概要	対象	簡易水道給水区域内の利用者		③ 12
	手段	水道施設内の各機器において、設置経過年数が長く耐用年数が過ぎたものや、水道施設管理上、早急な更新が必要なものを順次更新を行う。		③ 12
		個別計画・根拠法令	伊達市水道ビジョン、伊達市過疎地域持続的発展市町村計画	
		目的	浄水施設の機器の更新や施設の維持管理を行い、安心・安全な水道水を提供する。	
		事業終了(予定)年度	R2	

## 3 事務事業に対する指標の実績値と目標値

活動指標 (アウトプット) 【事業の実施結果】		単位	R2	R3	R4	R4	R5	R6	R7
			実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
①	施設整備事業の進捗度合	%	1.8	5.5	14.3	14.3	52.5	91.6	100.0
②									
③									
指標の設定根拠 (指標の算式)		① 各年度の事業費累計/全体事業費							
		②							
		③							
成果指標 (アウトカム) 【事業実施によって得られた効果】		単位	R2	R3	R4	R4	R5	R6	R7
			実績値	実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
①	機械及び装置減価償却率の増減割合	%	49.2	25.2	16.3	16.3	-1.3	7.0	12.1
②	水道の供給停止等事故発生回数	回	0	0	0	0	0	0	0
③									
指標の設定根拠 (指標の算式)		① (当年度/前年度-1)*100。老朽化度合を示す指標の増減割合で更新投資の効果をはかる。							
		② 浄水施設機器の老朽化が原因で生じる水道の供給停止等不具合の発生回数							
		③							

## 2 投入経費の実績と計画

単位：千円

投入経費	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	(決算額)	(決算額)	(決算額)	(予算額)	(計画値)	(計画値)
<b>直接事業費(A)</b>	<b>1,892</b>	<b>3,795</b>	<b>9,273</b>	<b>39,820</b>	<b>40,766</b>	<b>8,800</b>
国・道支出金						
地方債				39,000	40,000	
その他						
一般財源	1,892	3,795	9,273	820	766	8,800
最終予算額 (補正予算を含む)	1,892	3,795	9,273	39,820		
執行率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
<b>参考人件費(B)</b>	<b>113</b>	<b>172</b>	<b>400</b>	<b>1,129</b>	<b>1,188</b>	<b>356</b>
うち一般職員	113	172	400	1,129	1,188	356
投入人員[人]	0.02	0.03	0.07	0.19	0.20	0.06
うち会計年度任用職員	0	0	0	0	0	0
投入人員[人]	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
<b>投入経費合計(C = A + B)</b>	<b>2,005</b>	<b>3,967</b>	<b>9,673</b>	<b>40,949</b>	<b>41,954</b>	<b>9,156</b>
<b>人件費比率 (D = B / C)</b>	<b>5.6%</b>	<b>4.3%</b>	<b>4.1%</b>	<b>2.8%</b>	<b>2.8%</b>	<b>3.9%</b>

## 4 所管課による観点別評価 (一次評価)

観点	評価	評価の理由
妥当性	3	住民の生命維持に直結し公衆衛生を確保する簡易水道事業は市町村が経営するものと水道法で定められている。近隣との広域化は地理的条件等から経費節減効果が乏しく、コンセッション方式等での民営化は収益本位の営利企業の運営による供給の不安定化や水質悪化、料金上昇のリスクがあり、先行した諸外国では問題になっている。抱える課題は少なくないが、大滝区の簡易水道事業は今後も市が運営すべき事業と考える。 3：妥当である 2：検討の余地がある 1：改善が必要
有効性	3	インフラの維持・持続が主な目的であり、目に見える効果や成果ではないが、計画的な更新により老朽化度合は改善された。これにより、総合計画に掲げた安心安全な水道水の安定供給に寄与している。 3：単年度及び中長期の目標値を達成可能 2：単年度のみ達成 1：達成できない
効率性	2	料金収入で必要な費用を賄うことを前提としつつも、施設・管路の老朽化や人口減少、世界的なインフレなど経営環境は年々厳しさを増している。しかし、安易なコスト削減は断水や水質事故を招く恐れがあり、慎重に見極める必要がある。現行料金はH31に上水料金に合わせ統一したものであり、本来簡易水道事業が設定すべき料金を総括原価方式等で試算し検証しなければならない。 3：適正である 2：検討の余地がある 1：改善が必要

## 5 所管課による事業の方向性評価（一次評価）

### 【成果・コストからみる事業の方向性】

成果	拡充	維持	縮小	休廃止	完了
	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コスト	拡大	維持	縮小	皆減	完了
	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

所管課による 事業の方向性評価	<b>B</b>
--------------------	----------

### 【事業の方向性評価の基準】

A【拡充】	成果向上のため事業の対象・目標・内容等を拡充・充実すべきもの
B【維持】	事業の対象・目標・内容等が適切で、事業の実施を維持すべきもの
C【要改善】	事業の対象・目標・内容等が適切でなく、見直し(縮小)の必要があるもの
D【完了または廃止】	事業完了または事業の廃止を検討するもの

### 事業の方向性評価の理由

住民に安心安全で低廉な水道供給を維持するためには、今後も市が簡易水道事業を運営し、老朽施設の計画的な更新を継続する必要がある。

### 【事業の課題、改善策】

事業の課題やそれに対する具体的な改善策（次年度予算による取組、コスト削減方法 等）

課 題	前年度（R4）の事業実施の中で表れた課題	
	R4にR5当初予算編成作業を進めるうち、会計規模に対する事業費が多額でR5期中の資金が不足する恐れが生じた。	
改 善 策	課題に対する今年度（R5）の改善策	課題に対する次年度（R6）以降の改善策
	事業の財源となる企業債の借入時期の調整、水道事業会計からの一時借入の検討など。	R5と同様に対応する予定。
効 果 等	改善により見込まれる効果、負担を求める場合の住民に対するフォロー	
	特になし	
実 施 結 果	今年度の改善策の実施結果	次年度(R6)以降の事業実施に向けた改善策の見直し
	水道事業会計からの一時借入は利払いが生じるため極力避け、一般会計繰入金（他会計補助金）などで調整した。	R5の企業債借入によって資金に若干余裕ができたが、引き続き計画的な資金管理に努める。

### 【事業の方向性評価の目安】

成 果 の 方 向 性	拡充			A,B	A	A,C
	維持			B,C	B	C
	縮小			B,C	C	C,D
	休廃止		D			
	完了	D				
		完了	皆減	縮小	維持	拡大

コスト投入の方向性

## 6 事務事業評価会議による二次評価と今後の方向性

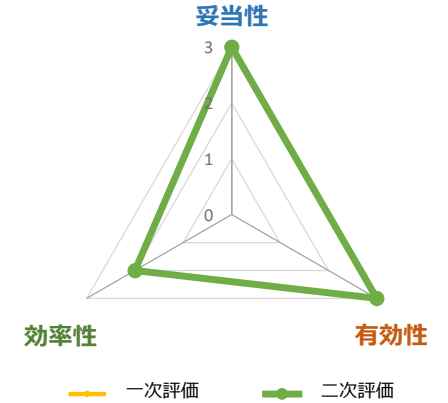
### 【観点別評価】

観点	妥当性	有効性	効率性
一次評価	3	3	2
二次評価	3	3	2

### 【観点別評価に対するコメント】

妥当性	市の関与または実施主体は妥当である。また、対象（受益者）や目的についても妥当である。
有効性	成果指標については妥当である。また、上位施策が掲げる目標には直接的に寄与している。
効率性	コスト全体に占める市の負担割合については適正なため、現時点でのコスト削減は適切ではない。

### 【観点別評価の一次・二次評価結果】



### 【成果・コストからみる事業の方向性】

成果	拡充	維持	縮小	休廃止	完了
	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
コスト	拡大	維持	縮小	皆減	完了
	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

事業の方向性に対する 総合評価	<b>B</b>
--------------------	----------

### 【事業の方向性に対する総合評価の基準】

A【拡充】	成果向上のため事業の対象・目標・内容等を拡充・充実すべきもの
B【維持】	事業の対象・目標・内容等が適切で、事業の実施を維持すべきもの
C【要改善】	事業の対象・目標・内容等が適切でなく、見直し(縮小)の必要があるもの
D【完了または廃止】	事業完了または事業の廃止を検討するもの

### 【全体をととしての評価と今後の事務事業の方向性】

事業の対象、目的、内容は適切であり、一定の効果が得られています。安心・安全な水道水を提供するためには、インフラの維持や更新が不可欠であることから、引き続き事業を実施することが望ましいといえます。

### 【事業の方向性に対する総合評価の目安】

成 果 の 方 向 性	拡充			A,B	A	A,C
	維持			B,C	B	C
	縮小			B,C	C	C,D
	休廃止		D			
	完了	D				
		完了	皆減	縮小	維持	拡大

コスト投入の方向性